

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	シヌクレイノパチーにおける異常タンパク質の伝播と蓄積の病態解明
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	<p>対象者：パーキンソン病 (PD: 7例)、レヴィ小体病 (DLB: 7例)、多系統萎縮症 (MSA: 7例)、diseased controlとして非シヌクレイノパチー患者 [筋萎縮性側索硬化症 (ALS: 7例)、アルツハイマー病 (AD: 7例)、進行性核上性麻痺 (PSP: 7例)] と診断された患者さんが対象となります。従って、対象となる患者さんのご遺族で、新潟大学脳研究所病理学教室に対して病理解剖、及び研究利用、保存の同意をいただいている方が対象です。</p> <p>対象期間： 2001年以降現在まで。</p>
③ 概要	<p>病理解剖時に凍結保存している脳組織の一部およびパラフィン切片を用いて、様々な方法で生化学的、病理学的解析を行います。</p>
④ 申請番号	C2023-0093
⑤ 研究の目的・意義	<p>パーキンソン病 (PD)、レヴィ小体病(DLB)、多系統萎縮症(MSA)は中枢ならびに末梢神経系に異常αシヌクレインの蓄積を特徴とし、これらの疾患はシヌクレイノパチーと包括されます。異常αシヌクレインは細胞間を伝播し、蓄積の過程で神経変性を引き起こすことが知られています。この異常αシヌクレインの伝播や蓄積にはexocytosis、endocytosis、exosomeなどの関与が疑われています。モデルマウスにおいてはこれらの系に関わる種々のmRNA量に変化が生じていました。しかし、患者さんの脳における同様の網羅的解析は充分になされていません。今回、患者さんの剖検脳 (PD: 7例; DLB: 7例; MSA: 7例) を用いて、αシヌクレインの伝播に関わるであろうと推定されるexocytosis、endocytosis、exosome関連タンパク質量とmRNA量をトランスクリプトーム解析ならびに質量分析で網羅的に検討します。また、細胞内分解機構の一つであるオートファジーなど蓄積に関わると推測されるその他経路についても併せて検討します。なお、正常対照の剖検脳 (7例) に加えALS (7例)、AD (7例)、PSP (7例) の患者さんの剖検脳を疾患対照として用います。有意に変動したタンパク質については凍結組織を用いたWestern blotやパラフィン切片を用いた免疫染色で確認します。本研究により、異常αシヌクレインの伝播の病態を明らかにし、それを阻害することによるシヌクレイノパチーの治療法開発の基盤を作成することに貢献できると考えています。</p>
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から 2026 年 3 月 31 日まで
⑦ 情報の利用目的及び	新潟大学脳研究所から提供する検体は、患者氏名・生年月日を含めず

利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	すべての個人情報は暗号化されているので、特定はできません。
⑧利用または提供する情報の項目	新潟大学脳研究所から提供される剖検脳はすでに採取され、凍結またはパラフィン包埋され保管されている組織のごく一部です。
⑨利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等で利用いたします。 本学の研究責任者：新潟大学 脳研究所病理学分野 柿田 明美 弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座 三木 康生 弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座 若林 孝一 弘前大学大学院医学研究科 脳神経生理学講座 下山 修司 弘前大学大学院医学研究科 分子生体防御学講座 多田羅 洋太
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 脳研究所病理学分野 教授 柿田 明美 弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座 三木 康生
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学 脳研究所病理学分野 氏名：柿田 明美 Tel：025-227-0633 E-mail：kakita@bri.niigata-u.ac.jp